

出題のねらい

哲学は「本質」を洞察することで、その問題を解き明かすための「考え方」を見出す営みであることについて述べた、哲学者・教育学者である苦野一徳『はじめの哲学的思考』（ちくまプリマー新書、二〇一七年）を取りあげた。内容は、信念の対立をどう乗り越えるのかについてであり、価値観の異なる人々とどのように折り合いをつけていくのかという哲学的思考の方法を論じていることから、これから教職を目指す本学受験生に有益な文章であると考えられる。問題は、筆者の考えを読み取った上で、その考えを説明できるかどうかという、読解力、要約力、思考力、創造力、および表現力を検査するものとした。

問1は、解答者の基礎的な読解力、要約力と表現力を問うものである。問2は、読解した筆者の主張をもとに、よりよい第三のアイデアを論述させることにより、解答者の読解力、要約力、表現力に加えて、思考力、創造力を問うものである。